

部活動の 地域移行について

彦根市教育委員会事務局学校教育課



日本における部活動とその意義

日本独自の文化として数十年行われてきた

★教科学習(学級や学年集団)とは異なる集団での活動

人間形成
の機会

多様な生徒
の活躍の場

スポーツに
親しむ機会

信頼感・一体感
の醸成

責任感・連帯感
の函養

など

部活動の現状と課題

- ・少子化に伴う学校規模の縮小や教員数の減少
- ・休日も含めた部活動や
経験のない部活動指導による負担増



部活動が生徒の

ニーズに応えることができない状況へ

部活動の地域移行について

令和2年9月に文部科学省事務連絡

「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」

令和5年度以降、

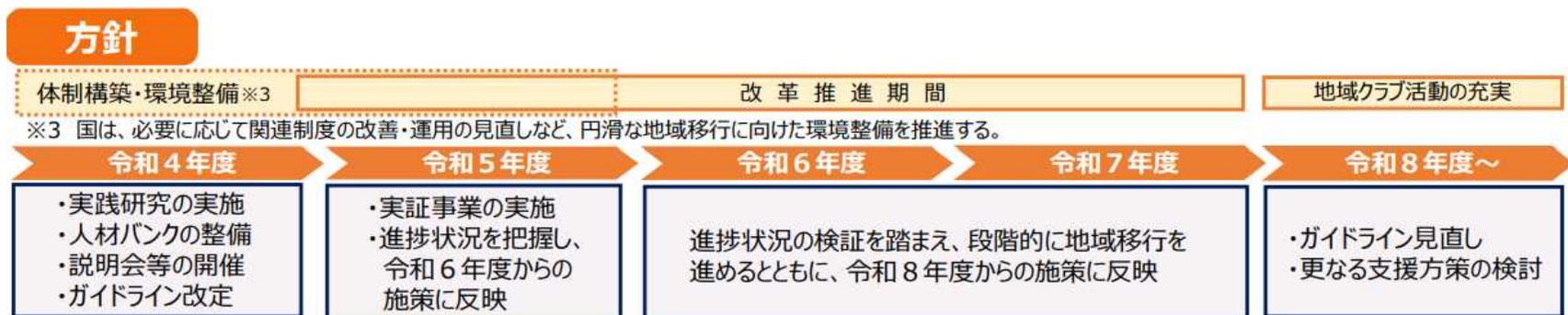
休日部活動の段階的な地域移行を提示

★部活動に代わる新たな中学生のスポーツ・文化環境を
各地域で創出していく必要がある。

スポーツ庁・文化庁が示す 改革の方向性

令和5年度から3年間の令和7年度末を改革推進期間とする

- 休日の部活動から、段階的に地域移行する
- 平日の部活動地域移行はできるところから行う
- 地域における活動機会の確保、様々なニーズに合った活動機会の充実
- 地域のスポーツ団体、文化団体等と学校の連携、協働の推進



地域移行の先行実践研究

～稲枝地区学校支援協議会による運営～

令和3年度～ 稲枝中学校区

稲枝地区学校支援協議会による休日地域部活動を実践

【稲枝地区が選ばれた理由】

- 教員OBなどの豊富な指導者人材(部活動指導員)
- 充実した地域の学校支援体制 など

令和3年度

5/8部活



令和4年度

7/8部活

移行済み

先行実践研究から見た 地域移行の成果と課題

【成果】

☆教員の負担軽減

- ・休日部活動の指導がなくなり、顧問の業務が改善された
(※部活動指導員として、関わっていた指導者が多く、
連絡、調整の負担も少なかった)

☆地域の専門的な指導者による指導

- ・小学校から継続して指導となる種目は、生徒の抵抗が少ない。
- ・教員の異動などに関わらず、常に専門的な指導者が配置できる。

先行実践研究から見た 地域移行の成果と課題

【課題】

★地域の指導者との連携

- ・平日部活動と休日部活動の連絡、調整が必要

★運営にかかる費用

- ・保護者の経済的な負担が増える。
- ・部活動ごとの費用負担に差がある(遠征費など)

先行実践研究から見た 地域移行の成果と課題

部活動地域移行には、

- ★各部活動の指導者の確保が必要。
- ★運営を任せることができる受け入れ母体が必要。



稲枝中学校以外の学校区での地域移行に
どのように生かしていくか

彦根市の部活動に所属する生徒数

	陸上競技	水泳	軟式野球	バレー	バスケ	ソフトテニス	卓球	バドミントン	剣道	サッカー	ハンドボール	ホッケー	吹奏楽部
東中	104	33	35	15	83		49	95	20	7	44		51
西中	56		12	24	46			80	28				42
中央中	54		17	23	44		53	65	11	23			34
南中	70	29	19	30	52	39	27	93	14	24	31	37	59
彦根中	73		23	27	54		57	50	17	34			27
鳥居本中											31		14
稲枝中			16	20	37	19	44	41	14				22
市合計	357	62	122	139	316	58	230	424	104	88	106	37	249

市内84部活
 総合計
 2292人
 (約74%)

目指す地域移行ビジョン(案)

彦根市教育委員会事務局学校教育課案

～生徒のニーズに合わせた、
スポーツ・文化活動に親しむ生徒を育成するひこね地域部活動～

その1 専門の指導者による質の高い指導

その2 地域の人材や特性を生かした活動機会の確保

